

## 予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

## 事業名 書誌情報システム更新保守管理費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部 図書館 管理調整係 電話番号：058-275-5111(内291)

E-mail : c21803@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 22,807千円 (前年度予算額： 22,813千円)

## &lt;財源内訳&gt;

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	22,813	0	0	0	0	0	0	0
要求額	22,807	0	0	0	0	0	0	0
決定額								

## 2 要求内容

## (1) 要求の趣旨(現状と課題)

図書館の貸出・返却・検索等の業務を円滑・迅速に行い、県民により利便性の高いサービスを提供できるようにする。

## (2) 事業内容

図書の貸出・返却や蔵書管理等を行う書誌情報システムの関連機器賃貸借及び維持管理業務。

※システムの改修や設定変更等が必要な場合は、事案発生の都度、補正予算で対応。

※令和6年度から6年間の債務負担設定済。

- ・図書館書誌情報システムの保守管理費：契約金額175,219千円

令和6年度：60,110,798円

令和7年度～令和10年度：各22,805,244円

令和11年度：23,887,226円

### (3) 県負担・補助率の考え方

県負担10/10

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	10,726	システム維持管理
使用料及び賃借料	12,081	機器賃貸借
合計	22,807	

### 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 事業主体及びその妥当性

書誌情報システムは、図書資料の貸出状況等を適正に管理するためには不可欠であるとともに、県民の効率的な図書館利用を可能とし、全県域の住民がインターネットを介して図書館や蔵書の情報を得られるようにするために必要であり、事業の必要性は高い。

# 事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

#### ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

図書資料の管理運営及び利用者による利活用推進のため、書誌情報システムを構築し、システムの安定稼働とセキュリティへの対応により、県民にとって安心・安全かつ利用しやすい図書館を目指す。また、利用者への貸出に関する利便性を向上し、貸出冊数の増加につなげる。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R1)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R11)	達成率
貸出冊数	353,052	290,880	350,000	350,000	350,000	83.1%

#### ○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

令和4年度	・約3万人分の個人情報を保有（令和4年度末時点）。書誌情報システム維持管理業務定例会を毎月開催するなどし、システムの安定稼働に努めた。 ・昨年度開始した県内高校在学中の生徒向けのオンライン利用者登録サービスを拡充し、県内一般利用者のオンライン利用者登録も開始するなど、非来館型サービスを推進した。
令和5年度	・約2万9千人分の個人情報を保有（令和5年度末時点）。書誌情報システム維持管理業務定例会を毎月開催するなどし、引き続きシステムの安定稼働に努めた。 ・オンライン利用者登録サービス等、引き続き非来館型サービスを推進した。
令和6年度	・約2万9千人分の個人情報を保有（令和6年度末時点）。書誌情報システム維持管理業務定例会を毎月開催するなどし、引き続きシステムの安定稼働に努めた。 ・書誌情報システムをクラウド化し、蔵書探索AIとデジタルアーカイブの機能追加を実施し、セキュリティを強化するとともに県民の利便性向上を図った。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

#### ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	本事業は、全県域の住民への情報提供のため、またコロナ禍以降の非来館型サービス拡充が求められる状況で、インターネットを介したサービスを可能としており、必要性が非常に高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない
(評価) 2	書誌情報システムにより、図書資料の貸出状況等を適正に管理できるため、事業の有効性は高い。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている
(評価) 2	インターネットによるサービス拡充により、県民は自宅からでも多様な図書館サービスを受けることができ、サービスの効率化を図ることができている。

### (今後の課題)

#### ・事業が直面する課題や改善が必要な事項

・デジタル化資料利活用対応など、DXやAI等の急速な情報環境の変化に合った機能強化を検討していく必要がある。

### (次年度の方向性)

#### ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

書誌情報システムは、図書資料の貸出状況等を適正に管理するために不可欠であり、必要性の高い事業である。引き続き、ニーズに応じた県民サービスの向上を図っていく。

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	